
半獣の友

景雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

半獣の友

【Nコード】

N6710T

【作者名】

景雲

【あらすじ】

慶国首都堯天、金波宮。祥瓊は午後のしばしの休息をしようとしたところ、ふと桓タイのことが頭をよぎり彼の官邸へ足を運んだ。そこで祥瓊は珍しく獣形の桓タイを見つける。

慶国首都堯天、金波宮。

官吏たちは午後のしばしの休息を満喫していた。祥瓊もまた、王の補佐を一旦終え、遠甫の住まう太師府へと向かう。おそらく虎嘯や鈴もそちらに向かっていることだろう。

景王でありながら鈴とともに親友として接してくれる陽子の取り計らいで、祥瓊たちは太師府で家族のように過ごしている。そう考えると、祥瓊は幸せだと思う。女史として王を補佐する仕事は大変だけれど、しかも陽子の回りには信頼できる官吏が少ないので、他国の女史より雑用が多いけれども、今自分はなんて恵まれた生活をさせてもらっているのだろう。祥瓊は微笑みを浮かべて歩いていた。「床拭きだつて柱磨きだつてなんだつてしちゃうわ。なんてね。」言つて祥瓊はくつくつとひとり笑つた。

ふと、祥瓊は桓タイのことを思い浮かべた。なぜ急に彼のことか頭に浮かんだのかよくわからない。祥瓊は首をかしげ、太師府に向かう足を止めた。祥瓊は桓タイの官邸へ行くことにした。

「……………」
祥瓊は思わず絶句してしまった。桓タイは、桓タイだったのだが、巨熊の形をとっていたからだ。慶国禁軍左將軍である彼は半獣である。普段は全くといっていいほど獣の形にはならない。王宮では尚更である。

だが今、桓タイは獣形で仰向けになり、大きな息を立てて熟睡していた。臥牀（寝台）で寝るのは憚られたのか、穏やかな陽光の射す庭院（中庭）で木漏れ日を浴びて気持ち良さそうに眠っている。その姿がなんだかわいらしくて、祥瓊はそつと彼に近づきしばらく寝顔を拝見してみた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6710t/>

半獣の友

2011年8月6日22時50分発行